

令和8年1月22日（木）6・7限

テーマ：「視点の転換：多文化理解の第一歩」

講師：南山大学外国語学部 スペイン・ラテンアメリカ学科

ロハス・エスピノーサ・ロレーナ・ス先生

1月22日（木）に、南山大学の先生による模擬授業が行われました。“自分にとっての「当たり前・常識」が、だれにとっても当たり前なのか？”という視点で、異文化社会で生活することを考える機会となりました。

この問いの答えを考える際、真っ先に思い浮かぶのは外国人。外国人と私たちの常識が同じではないことを、国際探究科の生徒たちはこれまで受けた外部講師による様々な講演会を通して知っていました。しかし、同じ日本人でも、住んでいる地域や世代が違うだけで、さらには隣に座っているクラスメートであっても、自分が「ふつう」だと思っていたことが相手はそう思っていなかったことを、先生が提示された具体例を1つ1つ確かめ合うことで実感することができました。だからこそ、とりわけ国際的に活躍したいと思っている国際探究科の生徒は、国が違って文化が違えば、そういった感覚のズレは大きくなるということを常に頭に入れて生活することが必要だと知ることができました。

担任 丹羽友美